

平成 22 年 3 月 23 日現在

研究種目：基盤研究(A)  
 研究期間：2007～2009  
 課題番号：19202004  
 研究課題名(和文) パルテノン神殿の造営目的に関する美術史的研究—アジアの視座から見たギリシア美術  
 研究課題名(英文) The Parthenon Sculpture—Greek Art from the Asian Viewpoint

## 研究代表者

長田 年弘 (OSADA TOSHIHIRO)  
 筑波大学・大学院人間総合科学研究科・准教授  
 研究者番号：10294472

研究成果の概要(和文)：本研究課題は、水田徹(当時の研究代表)によって平成6年に開始されたパルテノン彫刻共同研究を発展的に継承するものである。ギリシア、アテネにおいて築いた各美術館との協力関係を土台としてパルテノン彫刻に関する総合的研究を進めた。アジアを視座とするギリシア美術史研究を推進した。

研究成果の概要(英文)：This Project aimed to continue and develop the Parthenon Project Japan led by Akira Mizuta between 1994-1996. The Parthenon Sculptures in the British Museum, London, and in the new Acropolis Museum, Athens, were closely examined. A comprehensive study on the art works and its background was carried out. The theme of this project is “The Ancient Greek Art History considered from the Asian Viewpoint”.

## 交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	5,300,000	1,590,000	6,890,000
2008年度	6,500,000	1,950,000	8,450,000
2009年度	4,500,000	1,350,000	5,850,000
年度			
年度			
総計	16,300,000	4,890,000	21,190,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：美学・美術史

キーワード：古代ギリシア、彫刻、パルテノン、神話、美術史、ペルシア戦争、アテナイ

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 前回調査後に上梓されたパルテノン彫刻に関する英文報告書は、同作品に関する代表的著作において引用される等、研究促進に大きな貢献をなした。(2) 被引用文献は以下のとおり。J. Neils, ed., The Parthenon. From Antiquity to the Present, New York 2005, pp. 199, 214, 219, 223; M. Cosmopoulos, ed., The Parthenon and its Sculptures, New York 2004, p. 208.

## 2. 研究の目的

(1) こうした研究成果は、日本隊の調査によって、南北フリーズ彫刻に関して新知見が得られたことが大きく、前回は未調査に終わった彫刻の精査が望まれた。(2) とりわけ2009年開館のアテネ、新アクロポリス美術館の収蔵作品は、断片的な未公開作例を含むもので、フリーズを初めとする断片の調査と国際会議開催等を含むパルテノン彫刻の総合的研究を目的とした。

### 3. 研究の方法

(1) 日本隊としての特色：今回の共同調査では、研究の構想に新しい観点を取り入れた。すなわちアジアを視座とするパルテノン彫刻の再検証である。近年の研究において前提となっていた歴史像に修正を加え、対ペルシア関係を主軸としてパルテノン神殿を再解釈することを目的とした。歴史学の領域において、同様の研究手法を試みる師尾晶子、トロント大学のM. Miller を研究グループに加え、日本隊として特色ある総合研究を進展させた。

(2) 新しいパラダイム：従来の研究では、パルテノン神殿をペルシアに対するギリシア世界の勝利を象徴するモニュメントと見なしてきた。その装飾プログラムも、自由と民主主義を標榜するアテナイの政治的メッセージを伝えていたとする見方が一般的である。旧来の歴史像では、ペルシア戦争後のアテナイ人の抱いていた異民族観について、ペルシアの専制に対するアテナイの民主主義という二項対立のステレオタイプが解釈の前提となってきた。

しかしアジア対ギリシアという単純な図式の想定に関しては、この数年の研究によって厳しい批判が試みられ始めている。典型的な例は、本研究に参加する Margaret C. Miller, *Athens and Persia in the Fifth Century BC* (Cambridge 1997) による、古典期ギリシアにおけるペルシア文化受容に関する再検証である。さらに J. Boardman, *Persia and the West* (London 2000)、あるいは D. Castriota による近年の論考も同じ方向を目指す。ペルシアとアテナイの過度の対照を想定せず、両者がヘゲモニー確立のために互いの文化を積極的に受容し共存を目指していた過程が明らかになりつつある。本研究では作品の現地調査とシンポジウム開催などによって、パルテノン創建時におけるペルシア文化受容に関する解明を目的の一つとし、アジアを視座とする研究を展開した。

### 4. 研究成果

(1) 大英博物館における調査：研究機関の2007-2009年度に毎年計三回の現地調査を行った。I. Jenkins 学芸員の協力によって、開館までの早朝2時間の特別観覧の許可を得て、脚立を用いた観察と、写真による彫刻細部の撮影を行った。摩滅と損傷を受けた表面に十分な光量のライトを当てて撮影することによって、新しい画像資料を得ることができた。通常観察や図版類では観察できない、彫刻の上部(頭頂部など)に関しても撮影しうる意義は大きい。調査の役割分担は以下の通り。

- ① 残存部の図像の形象の確認(全員)
- ② 様式の分類、図像解釈等(美術史班、歴史班：長田、水田、篠塚、師尾)
- ③ 空間表現の確認および様式分析(美術史班：田中、中村るい、森園)
- ④ 彫刻家の手の判別と様式分析(芸術制作班：金子、藤井康子、田原迫華)
- ⑤ 金属部品装着跡、衣装装備等(坂田道生、福本薫、中村友代)
- ⑥ カメラおよびビデオ撮影(金子による統括、全員)

(2) 新アクロポリス美術館における調査：2009年度に開館した新アクロポリス美術館において、西面フリーズ浮彫ほか、東西北面の摩滅・損傷したメトプ浮彫り石板と破風断片の調査を行った。アクロポリスを管轄するエフォリア(監督庁) Alexandros Mantis博士の協力によって、西面フリーズ浮彫等の一部の作品について写真撮影を含む調査を許可された。

(3) 史学班の海外調査：史学班(師尾は、調査隊がアテネ、アクロポリス美術館において研究を進める際に併行して碑文の調査を行い、神殿建造の歴史的背景を調査した。

(4) シンポジウムの開催：下記の公開シンポジウムを開催した。

『前5世紀アテナイとペルシア帝国  
—文献および考古・美術史料による再解釈の  
試み—』

2008年1月26日(筑波大学芸術学系棟)

長田 年弘

「ペルシア戦争前後のアテナイ美術に見られるアマゾン図像の変遷」

師尾 晶子

「アテナイ帝国主義—貢租表と貢租納入の政治性と儀礼性」

Margaret C. Miller (シドニー大学考古学部)

「Persians in Greek Imagination」

(司会 長田 年弘 篠塚 千恵子)

『パルテノン彫刻研究—新アクロポリス美術館とあらたなステージ』

2008年11月8日(筑波大学芸術学系棟)

森園 敦

「パルテノン・フリーズにおける神々の位置関係について」

田中 咲子

「パルテノン・フリーズにみるギリシア人の空間把握」

Olga Palagia (アテネ大学)

「パルテノン・フリーズの三人の少女」

Katherine Schwab (フェアフィールド大学)  
「パルテノン・メトプー神話の背景を探る」  
Christina Vlassopoulou (新アクロポリス美術館)  
「パルテノン・フリーズの保存と新アクロポリス美術館での展示」  
(司会・進行 長田 年弘)

『パルテノン神殿と祭神のイメージ—古代ギリシアの宗教観を問う試み』

2010年3月20日(筑波大学芸術学系棟)  
中村 友代(筑波大学大学院 人間総合科学研究科芸術専攻 博士前期課程)

「パルテノン・フリーズの騎士および戦士の武具に関する調査報告」

中村 るい  
「パルテノン・東フリーズの12神の空間—東京芸術大学美術解剖学研究室の立体復元をもとに—」

(模型制作:岩城諒子・加藤公太・古川遊・村上直起)

コメンテータ:中村義孝(筑波大学大学院 教授・彫塑制作)

芳賀 京子(東北大学大学院 准教授)  
「神像と聖性—《アテナ・パルテノス》の場合—」

Alan Shapiro (The Johns Hopkins University, Professor)

「テセウスとパルテノン神殿 Theseus and the Parthenon」

(司会・進行 長田 年弘)

(5) 大英博物館におけるロンドン・セミナー  
開催:学芸員Ian Jenkins博士の協力を得て、ロンドン、大英博物館において研究会を開催した

第1回ロンドン・セミナー  
2007年11月22日(大英博物館図書室)  
Ian Jenkins  
「パルテノン・フリーズの主題について」

第2回ロンドン・セミナー  
2009年9月25日(大英博物館 Dept. of Scientific Research)

長田年弘  
「The Encounter of Gods and Mortals in Parthenon Frieze (パルテノン・フリーズにおける神々と人間の対峙)」

Giovanni Verri(The British Museum)  
「Recent discovery of ‘Egyptian Blue’ pigment on the Parthenon sculptures」

(6) 研究例会の開催:下記のように研究例会を開催した。

第一回研究例会

2007年6月9日(筑波大学芸術学系棟)  
長田年弘  
「パルテノン神殿本尊台座浮彫りに関する最近の研究」

宮里明人  
「『パルテノン・フリーズの構図と制作プロセスに関する研究報告書』出版について」  
師尾晶子

「奉納碑と碑文建立文化—名前を碑に刻むということ」

第2回研究例会  
2007年10月28日(筑波大学芸術学系棟)  
「11月調査旅行役割分担打ち合わせ」  
「論文紹介および討論」

Jeffrey M. Hurwit, The Parthenon and the Temple of Zeus at Olympia, in: J. M. Hurwit, M. Barringer et J. Hurwit (ed.), Periklean Athens and Its Legacy. Problems and Perspectives (Austin 2005) pp. 135-146.  
(中村るい)

E. Simon, Die Mittelszene im Ostfries des Parthenon, Athenische Mitteilungen Bd. 97 (1982) 127-144. (長田年弘)

J. J. Pollitt, The Meaning of the Parthenon Frieze, in: D. Buitron-Olivier (ed.), The Interpretation of Architectural Sculpture in Greece and Rome (Baltimore 1993) pp. 51-65. (長田年弘)

Joan B. Connelly, Parthenon and Parthenoi: A Mythological Interpretation of the Parthenon Frieze, American Journal of Archaeology vol. 100, 1996, pp. 53-80. (長田年弘)

Ian Jenkins, The Parthenon Frieze and Perikles' Cavalry of a Thousand, in: J. M. Hurwit, M. Barringer et J. Hurwit (ed.), Periklean Athens and Its Legacy. Problems and Perspectives (Austin 2005) pp. 147-162.  
(田中咲子)

第3回研究例会  
2008年6月14日(筑波大学芸術学系棟)  
「8月調査旅行打合せ」

篠塚千恵子  
「東フリーズの女性の衣装について(第2次パルテノン・プロジェクト・ジャパン第1回調査報告)」

中山典夫  
「パルテノン彫刻の彩色について」

第4回研究例会  
2009年6月27日(東京藝術大学中央棟)  
長田年弘

「Also Ten Tribal Units - The Grouping of Cavalry on the Parthenon North Frieze」  
中村るい、加藤公太、村上直起

「パルテノン・東フリーズの 12 神の配置－  
立体復元よりの試論（中間報告）」

第 5 回研究例会

2009 年 8 月 6 日（早稲田大学文学部）

1 トルコ遺跡資料配布

2 各遺跡説明

トロイア（藤井）、ペルガモン（長田）、エフ  
ェソス（坂田）、ミレトス（福本）、プリエネ  
（中村）、ディデユマ、アッソス

3 トルコ遺跡紹介（水田）

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者に  
は下線）

〔雑誌論文〕（計 20 件）

①田中 咲子、ギリシアの墓碑浮き彫りと墓  
碑銘、地中海研究所紀要、査読無、第 7 号、  
2009、17 - 29.

②Toshihiro Osada, Also Ten Tribal Units  
- The Grouping of Cavalry on the Parthenon  
North Frieze, Archaeological Institute of  
America. 110th Annual Meeting. Abstracts,  
32, 2008, 53-54. 査読有

③Toshihiro Osada, The Honor of Orestes  
and the Cowardice of Aigisthos. Formation  
of the Social Ideal and Athenian  
Vase-Painting in the Early-Classical  
Period, Bulletin Antieke Beschaving,  
Annual Journal on Mediterranean  
Archaeology 83, 2008, 61-71. 査読有

④篠塚 千恵子、ギリシアの「癒しの美術」  
考—アスクレピオスをめぐるクラシック期  
アッティカ美術、地中海研究所紀要、査読無、  
第 6 号、2008、3-32.

⑤金子 亨、藤井 康子、平林孝央、武藤俊  
太郎、光学機器と絵画表現の関係について  
の一考察、東京学芸大学紀要 芸術・スポーツ  
科学系、査読無、60 集、2008、93-104。

⑥Akiko Moroo, The Parthenon Inventories  
and Literate Aspects of the Athenian  
Society in the Fifth Century BCE, KODAI,  
13/14, 2007, 61-72. 査読有

⑦櫻井 万里子、空間構造に見るアテナイ民  
主政成立の背景、史境、査読無、54 巻、2007、  
1-14.

〔学会発表〕（計 14 件）

①Toshihiro Osada, Die Entmythologisierung  
des Alexandermosaiks an der Dar-  
stellung des Dareios, 13. Öster-  
reichischer Archäologentag, Salzburg  
(Austria), 25-27. 2. 2010.

② Emiko Tanaka, Die Perspektiv des  
Parthenonfries, 13. Österreichischer  
Archäologentag, Salzburg (Austria),  
25-27. 2. 2010.

③櫻井 万里子、趣旨説明、学会会議公開講  
演会「人口とジェンダー」、2008/1/12、日本  
学会会議講堂。

④篠塚 千恵子、ギリシア美術の西漸とイベ  
リア文化、スペイン・ラテンアメリカ美術史  
研究会、民族藝術学会、2008/12/13、セルバ  
ンテス文化センター。

⑤Akiko Moroo, A Reconstruction of 'the  
Regulations for Miletos,' IG I3 21:  
Toward Dating to the 420s and Proposing its  
Historical Context, 13th International  
Congress of Greek and Latin Epigraphy,  
2007/9/4, Oxford (The United Kingdom).

〔図書〕（計 10 件）

①篠塚 千恵子、青年の死を記念する陶器—  
シュリーマン旧蔵の赤像式ルトロフォロス  
を起点にして、平成 18 年度～平成 20 年度 科  
学研究費補助金 萌芽研究 古代ギリシア  
美術の私的領域に関する図像の研究 研究  
成果報告書、2009、9-27。

②田中 咲子、古代ギリシアの墓碑浮彫りと  
墓碑銘、平成 18 年度～平成 20 年度 科学  
研究費補助金 萌芽研究 古代ギリシア美術  
の私的領域に関する図像の研究 研究  
成果報告書、2009、27-40。

③中村るい、イメージとパトロンの（「パルテ  
ノン神殿とアテネ市民」）、ブリュッケ社、  
2009、195-208。

④中村るい、パルテノン・プロジェクトの現  
地調査 2007、Minervium 2008 —授業研究  
報告集一、京大出版センター、2008、62-75。

⑤櫻井 万里子、いまに生きる古代ギリシア、  
NHK出版、2007、190。

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

長田 年弘 (OSADA TOSHIHIRO)  
筑波大学・大学院人間総合科学研究科・准教授  
研究者番号：10294472

### (2) 研究分担者

篠塚 千恵子 (SHINOZUKA CHIEKO)  
武蔵野美術大学・造形学部・教授  
研究者番号：80279801  
水田 徹 (MIZUTA AKIRA)  
東京学芸大学・教育学部・名誉教授  
研究者番号：30055917  
金子 亨 (KANEKO TORU)  
東京学芸大学・教育学部・教授  
研究者番号：90233882  
師尾 晶子 (MOROO AKIKO)  
千葉商科大学・商経学部・教授  
研究者番号：10296329

### (3) 連携研究者

櫻井 万里子 (SAKURAI MARIKO)  
東京大学・大学院人文社会系研究科・名誉教授  
研究者番号：90011329